

ラグビー日本代表における 競技転向の可能性についての研究

A Study of career change in Japan rugby representative players

1K10C228 鈴木 光

主査 平田竹男 先生

副査 中村好男 先生

【背景】

2019年、ラグビーワールドカップが日本で開催されることが決定した。日本ラグビーフットボール協会は今大会でベスト8入りを目標としているが、2013年11月現在、日本はIRB世界ランキングにおいて14位と位置づけられている。6年間という短期間の間に日本代表を強化する必要がある。

表1 IRB世界ランキングとU20世界大会順位

	IRB世界ランキング	U20世界大会2009
ニュージーランド	1	1
南アフリカ	2	3
イングランド	3	2
オーストラリア	4	4
フランス	5	5
アイルランド	6	8
ウェールズ	7	6
サモア	8	7
スコットランド	9	9
アルゼンチン	10	11
イタリア	11	13
フィジー	12	12
トンガ	13	10
日本	14	15

表は2013年11月現在のIRB世界ランキングと2009年20歳以下代表世界大会の結果を表したものである。U20世界大会の結果とIRBランキングがほぼ一緒であることがわかる。つまりU20で勝っていないとその後良い結果は見込めない。若い有能な選手の発掘、育成が必要である。

ラグビー日本代表には高校、大学からラグビーを始めた選手が存在する。日本代表を短期間で強化する方法の一つとして競技転向による選手の発掘があげられる。

【目的】

本研究の目的は、日本代表カテゴリーに選出された選手の内、高校、大学からラグビーを始めた選手の割合を明らかにすることにより、競技転向による日本代表入りの可能性を示すことである。

【方法】

過去5年間にU18日本代表、U20日本代表、JAPANに選出された選手の小学校、中学校の競技歴を集約し以下の分析を行う。

- ① 競技転向選手の割合分析
- ② ユニット・ポジション別分析
- ③ 競技転向選手の過去経験競技分析
- ④ 高校ブロック別分析

また上記の結果をまとめ、高い数字が確認された項目

についてさらなる分析を行う。

早稲田大学蹴球部に所属する高校からラグビーを始めた選手へインタビューを行う。

【結果】

U18、U20に選出された選手のうち、約2割の選手が高校、大学からラグビーを始めた選手である。またJAPANでは約3割の選手が高校、ラグビーを始めた選手である。ユニット・ポジション別に分析した結果、全カテゴリーでFWがBKより競技転向選手の割合が高く、特にPR、LO選手の競技転向選手割合が高い結果となった。PR、LO選手には優れた体格が求められ、PRにおいては全カテゴリーにおいてラグビー経験者より競技転向選手のほうが身長、体重ともに大きいことがわかった。

インタビュー結果では、高校からラグビーを始めても遅くない、むしろ中学校まで違う競技を行っていたことによるメリットもあることがわかった。

【考察】

本研究では、ラグビー日本代表カテゴリーにおいて競技転向選手の割合が2割～3割という結果になった。この数字はサッカー日本代表が全員小学生からサッカーを行っていたことと比較すると、日本でラグビーはまだマイナー競技であることを表しているのではないかと。本研究は2019年ラグビーワールドカップに向けた短期間での日本代表強化の方法の一つとして競技転向選手の発掘育成をあげたが、今後長期的な日本代表の強化を目指すなら、ラグビーを行うことができる環境整備が必要不可欠である。ラグビースクールや中学校の部活動など、幼少期からラグビーをできる環境を整備することによってラグビーの才能を持つ子どもが最も能力向上に適した時期にラグビーをすることができるだろう。

PR、LOの割合が多いことから、優れた体格を持つことが日本代表になるための大きな要因の一つとすることができる。小中学生で優れた体格を持った子には是非ラグビー日本代表選手を目指して欲しいと思う。また高校からラグビーを始めた選手特にFWの選手には、技術面の練習もちろん必要であるが、ウエイトトレーニングや食事の栄養管理などを積極的に行い体格を大きくする努力をして日本代表に入れるよう頑張ってもらいたい。